＜＜　注　意　報　＞＞

岡 病 防 第 ４ 号
令和８年５月１９日

各 関 係 機 関 長　殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報の発表

病害虫発生予察注意報第１号を下記のとおり発表したので送付します。

令和８年度病害虫発生予察注意報第１号

令和８年５月１９日
岡　　山　　県

病害虫名　　**果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）**

１．発生が予想される地域
　県内全域

２．対象品目
　もも、なし等

３．発生が予想される時期
　５月～７月

４．予想される発生量
　多

５．注意報発表の根拠
（１）赤磐市の集合フェロモントラップにおける４月 21 日～５月 10 日の**チャバネアオカメムシ誘殺数は 393 頭と平年（102.6 頭）より多い**。
（２）５月８日の巡回調査におけるもも園地での被害は軽微であったが、**被害発生園地率は 28.6%で平年（5.7%）より高い**。
（３）広島地方気象台が４月 21 日に発表した３か月予報によると、今後の気温は平年より高い見込みとされており、飛来に好適な気象条件であると考えられる。

６．防除対策及び防除上の参考事項
○薬剤散布
（１）果樹カメムシ類は、局地的に飛来し、被害をもたらすことがあるので、定期的に園地を見回り、早期発見に努める。特に、山間部や山沿いの園地は被害を受けやすいので注意する。
（２）収穫期まで、果樹カメムシ類の飛来を確認したら速やかに薬剤散布を行う。
　もも、なしにおける防除薬剤は表１及び表２による。
（３）果樹カメムシ類は夜行性で、日没直後に園地に飛来し、翌朝飛び去るため、夕方や早朝の防除が有効であるが、暗い時間帯での作業は注意する。

○その他防除対策

（１）袋掛け作業を遅れないように行う。

（２）黄色灯の点灯はチャバネアオカメムシに対して忌避効果があるが、発生が多いと十分な効果を得られないため、薬剤防除を徹底する。

（３）樹全体に目合い４㎜以下のネットを掛けて果樹カメムシ類の寄生を防ぐ。
ただし、すでに果樹カメムシ類が寄生している樹にネットを掛けると大きな被害を受けるので、ネットを掛ける前に薬剤散布を行う。

○防除上の参考事項

（１）袋掛けを行う果樹については、「袋掛けまで」と「袋掛け後の肥大～成熟期（袋と果実が密着し、果樹カメムシ類が袋の上から吸汁可能となる）」の果実被害が懸念される。

（２）もも、なし以外の、その他果樹においても過去に果樹カメムシ類による被害があった園地では、今後の飛来に注意する。

（３）ぶどうの被害は過去にはほとんど見られなかったが、多発した令和６年には成熟期の被害が報告されているため、今後の発生に注意する。

（４）薬剤の散布にあたっては農薬使用基準を順守し、人畜、水産動物等への危害防止に努め、安全、適正に使用するとともに、周辺農作物等へ飛散しないよう十分注意する。

（５）最新の農薬登録情報は、農林水産省ホームページの農薬登録情報提供システム（https://pesticide.maff.go.jp/）で確認できる。

表１　**もも**のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和８年４月23日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC[2)]
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	コード
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	3A[1) 3)]
アディオン乳剤	収穫7日前まで	2,000倍	6回以内	
テルスター水和剤	収穫14日前まで	1,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000倍	2回以内	
イカズチWDG	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
ロディー乳剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	5回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	4A
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで[5)]	5,000～10,000倍	2回以内	
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで[5)]	1,000倍	2回以内	
アドマイヤーフロアブル	収穫3日前まで[5)]	5,000倍	2回以内	
ｽﾀｰｸﾙ/ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫7日前まで	2,000～4,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
キックオフ顆粒水和剤[1) 4)]	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	28/4A

１）水産動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

２）IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

３）IRACコード３Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

４）有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル／アルバリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

５）ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。

表２ **なし**のカメムシ類の防除に使用する主な薬剤（令和８年４月23日登録状況確認）

農薬の名称	農薬使用基準			IRAC[2)] コード
	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数	
アグロスリン水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	3回以内	3A[1) 3)]
アディオンフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	2回以内	
アディオン乳剤	収穫前日まで	2,000倍	2回以内	
サイハロン水和剤	収穫7日前まで	2,000倍	3回以内	
スカウトフロアブル	収穫前日まで	1,500倍	5回以内	
テルスター水和剤	収穫前日まで	1,000～2,000倍	2回以内	
テルスターフロアブル	収穫前日まで	3,000～6,000倍	2回以内	
マブリックEW／水和剤20	収穫30日前まで	2,000倍	2回以内	
ロディーWDG	収穫前日まで	1,000～1,500倍	2回以内	
ロディー水和剤	収穫前日まで	1,000倍	2回以内	
イカズチWDG	収穫前日まで	1,500倍	3回以内	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	4A
アドマイヤー水和剤	収穫3日前まで[5)]	1,000倍	2回以内	
アドマイヤー顆粒水和剤	収穫3日前まで[5)]	5,000～10,000倍	2回以内	
ｽﾀｰｸﾙ/ｱﾙﾊﾞﾘﾝ顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ダントツ水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
バリアード顆粒水和剤	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	
ベストガード水溶剤	収穫14日前まで	1,000～2,000倍	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	収穫前日まで	2,000～4,000倍	3回以内	
キックオフ顆粒水和剤[1) 4)]	収穫前日まで	2,000倍	3回以内	28/4A

１）水産動植物に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用は避ける。

２）IRACによる農薬有効成分の作用機構の分類。

３）IRACコード３Aはピレスロイド系で天敵類への悪影響が大きく、ハダニ類、サビダニ類を多発させる恐れがあるので多用を控える。

４）有効成分がクロラントラニリプロールとジノテフランであることから、サムコルフロアブル10やスタークル／アルバリン顆粒水溶剤と併用する場合、有効成分の総使用回数を遵守する。

５）ただし、露地栽培については発芽期から開花期を除く。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を確認し厳守するとともに、農薬飛散に注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

（参考）この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/　です。